

一般社団法人もとみや青年会議所 2017年度 理事長所信(案)

一般社団法人もとみや青年会議所

2017年度理事長

吉田 光徳

《スローガン》

『 挑戦 』

次世代へ繋ぎ 輝きつづけるJC へ

《基本理念》

成長なくして飛躍なし、次に繋がる為の人財へ

《基本方針》

1. 次世代に繋げる「人材」から「人財」の育成の挑戦
2. 地域の特徴を生かし生きいきとしたまちづくりの挑戦
3. もとみや青年会議所の価値を高める

《事業計画》

1. 永代続く チーム もとみやへ
2. 一期一会からなる「気づき」・「学び」からの人財の育成
3. 次世代へ繋げるまちづくり
4. もとみや青年会議所の価値を高め会員拡大

はじめに

日本青年会議所の運動は1949年に始まりました。それから 38 年後に、南達の地にも運動が伝わり、1987年全国で745番目のLOMとしてもとみや青年会議所が誕生致しました。それから幾年月を重ね昨年で30周年を迎えるにあたりました。我々の運動が、一つの節目であり通過点です。決して終着地点ではありません。我々は地域の未来を担う「誇り」と「責任」を胸に刻み今後もこれまで引き継いできた伝統を受け継いでいかなければなりません。そのためにはどうしてゆくべきなのか？その答えはとても身近な所にありました。

それは諸先輩方が創立時に宣言した、創立宣言文。

その中に、

「今も我々は、友情と信頼を基盤に、勇気をもって困難に向かい常に自己を磨き、」
という一文があります。

今日の目まぐるしく変化する社会情勢、また震災から6年が経過し未だに収束しない問題の数々、地域や組織に存在する共通の課題が未だに多く存在しております。この共通の課題に対し、メンバー同士の連携を強化し努力・友情・信頼を築きながら、様々な困難にも果敢に挑戦し続ける人材を育む事で、次世代に繋ぐ「人財」へと成長することでしょう。

永代続く青年会議所 チーム もとみやへ

福島県は現在、少子高齢化が進み定住人口減少問題が顕在化し喫緊の課題となっています。それに伴い多くの諸団体が会員減少という問題に直面しているのが現状です。我々が活動する『もとみや』の地でも同じ問題に悩まされております。

少人数になればなる程、一人ひとりの負担が増し余裕が無く疲弊している団体も少なくありません。その問題にもっと真剣に取り組んでいかなければなりません。

これから、組織としても委員会などの単位に捕られることなく、メンバーが一丸となって取り組んでいく柔軟な対応が必要となると考えます。時には、委員会や役職の役割の枠を超え、困っているメンバーがいれば共に悩みチームワークで挑戦する事で、友情や信頼を育みお互いに成長し合える関係となる事でしょう。その関係こそが、次に繋がる一歩となり、積み重ねる事で、永代輝く青年会議所となるでしょう。

一期一会からなる学びを得られる事業

みなさんは、自分が生まれ育ってどれだけの人々とかかわっているか？皆さん数えた事ありますか？
でしょうか？誰もが、生活する中で数えられない位の出会いと別れが存在する事でしょう。

そんな中で私達は人生を学び、歩んで行きます。

私は、人と人の出会いが大小様々な「気づき」や「学び」を得る事で成長していくと確信しております。またそれは、年齢や性別の境界は無いはずです。私は、3人の子を持つ父親ですが、我が子からのちょっとした発言や行動等から「気づきや学び」を得る事も多くあります。無垢な子供程、目的に対して純粹で自由な心を持っているからこそだと私は、実感しております。

つまり、世代に関わらず人と人の出会いが成長する鍵を握っているのです。

限られた年数の中、若い我らでしかできない運動を、一期一会 覚悟をもって挑みます。

その中で、様々な人と出会い共通の課題に取り組み解決する事で、次世代のリーダーとしての人材が育ち、それがやがて、もとみや発展へ貢献し、地域活性化の一助となるべく事業を行ってまいります。

次世代へ繋げるまちづくり

もとみや JC の活動は、本宮市、大玉村からなる、一市一村になります。本宮市は、旧本宮町と旧白沢村が合併して10周年を迎えます。10年という月日で大きく変化致しました。例えば、本宮 ICにある工業団地は、本宮の中核を担うべく活性化し、大玉村では海を超えて世界で初めてマチュピチュ村と友好都市協定を結びました。また、本宮・大玉村の、一部の地域ではスポット的に人口が増加している所もあります。また、本宮駅の東西自由通路の計画も具体的になり、今後の南達の地域も大きく変化しようとしております。もとみや青年会議所事務所の移転も余儀なくされており、本宮・大玉の活動エリアを拠点とし今後の、JC 運動・JC 活動を円滑に行うべく事務所移転も具体的な方針を決めて行かなければなりません。

地域とは、この地に人が住み、人と人がつながる事で地域のコミュニティーが形成されていき繋いでいく事で一つの地域が築きあげられます。様々な課題や、地域に存在する観光資源を活かしつつ私達がまちづくりに果敢に行動し挑戦する事で、次世代に繋ぐ子ども達に、魅力ある街づくり・誇りある街づくりを感じていただき、次世代に繋がる様な事業を展開して参ります。

もとみや青年会議所の価値を高め会員拡大へ

我々、青年会議所は、全国的にも会員数の減少の一途を辿っております。

もとみや青年会議所は、近年若いメンバーが多数入会したことにより僅かながら増加しておりますが楽観視はできません。経済情勢の悪化や人口減少に関しては、すぐに解決できる問題ではありませんが、果たして会員数の減少の要因はそれだけでしょうか？

直前理事長の言葉で、

「やらされていると思うと愚痴がでる、させていていてと思うと知恵がでる」
という言葉について教えてもらいました。

本当にやりたい事業をメンバー一丸となって、自己成長の一助として「感謝」・「誠実」に行う事で、明るく楽しい生きいきとした JC 活動を周りにも発信でき、己の成長を対外的にも感じて頂きながらすることで、団体としての雰囲気もより良くなる事でしょう。それがやがて、口コミ等でそれが広がり、まだ多くの未入会者も興味を持っていただけることでしょう。青年会議所活動としての価値観に共感してくれる青年が少しでも増えてくれれば同時に、「明るい豊かな社会の実現」という理念に一歩近づきます。

その為にも、年々減少傾向にある会員の拡大を重要事項として捉え、生きいきとした青年会議所活動を発信しつつ、LOM 内部の組織力と強化しつつ、会員の拡大に力を入れ多くの仲間と共に地域の課題の解決に挑戦して参ります。

結びに

私が、もとみや青年会議所に入会したのは4年前でしたがその当時のメンバーは15名でした。現在では、23名となっております。

数字的にみれば会員の増加ですが、まだまだ経験の浅いメンバーも多い現状です。もとみや青年会議所には、理事長経験者が現会員として多数在籍しております。LOM内で、先輩方々の貴重な体験や実績経験の共有化を図ると、新メンバーならではの、固定概念にとらわれない新しい挑戦が出来る組織運営を行い、末永く続く組織をつくり JC の崇高な理念の「明るい豊かな社会の実現」の一助となるよう活動して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

2017年度 総務広報室事業計画書(案)

総務広報室

室長 渡邊 雄一

「和を以て貴しとなす」

1. 事業方針

もとみや青年会議所は、諸先輩方が積み上げてきた歴史と、地域の皆様の多大なるご協力のもと、昨年30周年という大きな節目を迎えました。今後も地域の発展のために継続して活動していくには、組織の運営基盤を強固にし、メンバー一人ひとりの意欲を高め、組織の円滑な運営により個々の成長を促し、次世代へ繋いでいく「人財」の育成が必要だと考えます。

まず、運営基盤を強固にするために、会場設営など事業や例会へのサポート及び規律あるセレモニーの運営を行い、メンバーが例会や事業に真剣に向き合い、担当委員会が委員会活動に専念できる環境を整えます。さらに、総会や理事会など各種会議の運営を規律正しく格式ある場にするために、定款や規則に則り厳格な運営を行います。そして、会議を活発にして実りあるものにするために迅速かつ正確な資料の作成に努めます。また、もとみや青年会議所の活動を瞬時に外部へ発信するために、既存のホームページを改善し、担当委員会が事業内容を発信しやすい環境を整えます。これらの活動を通して、メンバー同士が私心を去り、公共の利益を実現するため委員会間の垣根を越え全体で事業に挑戦できる環境を整えることで組織全体の活性化を図り、次世代に繋ぐ「人財」へと成長を促す組織づくりを行います。

当委員会は、メンバーの参加意欲を高め、各事業の参加を促すことにより、活動に対する意識を向上させ、一人ひとりの成長に繋がります。「和を以て貴しとなす」次世代に繋げる「人材」から「人財」へ成長できるよう環境を整えてまいります。

一年間宜しくお願い致します。

2. 事業計画

- ① 総会並びに理事会、例会等の諸会議の設営または運営
- ② 新年会、チャーターナイト、さよなら例会及び卒業式の企画及び運営
- ③ 会員名簿を完備し、会員手帳の整備
- ④ 各種資料のデジタル化と整理、保管、及び事務局内 PC のデータ管理及びメールの確認
- ⑤ マスコミ・通信媒体を活用した情報の発信及び収集
- ⑥ 日本青年会議所、東北地区協議会、ブロック協議会及び各地青年会議所との連絡調整
- ⑦ 理事会並びに総会・臨時総会等の議事録の作成
- ⑧ 委員会事業に関する予算、決算の指導と通帳管理
- ⑨ 青年会議所活動の対外的情報発信及び報道関係への連絡・調整並びにホームページの更新作業
- ⑩ 特定個人情報の管理等
- ⑪ 組織連携を図り、JC の魅力を発信する取り組み及びそれに関わる事業
- ⑫ 組織連携及び組織活性化への積極的取り組み

事業名	一般会計繰入金	その他収入予算	事業予算
1月通常総会	8,500	0	8,500
新年会	20,000	10,000	30,000
5月家族例会	0	0	0
9月臨時総会	0	0	0
チャーターナイト メモリアルパーティー	10,000	10,000	20,000
対外紙(広報紙)	220,000	0	220,000
さよなら例会・卒業式	70,000	30,000	100,000
ホームページ	100,000	0	100,000
合計	428,500	50,000	478,500

「ひとづくりは意思づくり」

1. 事業方針

人材育成。それは資本主義社会が成立して以来、国、自治体、会社、そして我々のような団体すべてにとっての永遠の課題であると言えます。一口にひとづくりと言ってもその内容やニーズは千差万別であり、育成方法に正解はなく、常に新たな手法に挑戦していかなくてはならない課題です。

我々は地域の礎となるべき青年として、どのように成長し、またどのような人材を育てていくべきなのかを考えなければなりません。さらには人材を育成するということは会員拡大の視点から見ても、長期的視野をもった計画の一環として将来の潜在的な入会候補者の種を蒔くことになり、継続的に拡大に繋がっていくことになるはずです。

当委員会としては、民主主義と合議制が主流である現代社会において大事なことは、己の意思を明確にしてそれを相手に表明することで、時には協力し、時にはぶつかりながら切磋琢磨する姿を目指すことであると考えました。そこで我々委員会は事業を通して意思を通わせる機会を作り、地域の青少年達に自分たちがその一員であるという自覚を促すと共に健全な意思を醸成し発信していく基盤を作ることを目標とします。

しかし意思というものは一人では成熟することができません。前述したように協力や衝突を繰り返して醸成されるものであると考えます。上記の目標と合わせ、日本古来の茶の湯の精神である「一期一会」を行動の芯に据えることでお互いの意思を表明する上で大事である、相手の意思の尊重を「意思づくり」に取り入れて参ります。

また私たちメンバーも「一期一会」を意識し青少年たちと事業を通じた関わりを持つことで、新たな考え方を取り入れ昇華させるきっかけになると考えます。

「人は衣食満ち足りて初めて礼節を知る」とも言います。礼節とは即ち相手の尊重です。意思を交わす前提として必要不可欠な礼節を存分に身に着ける環境を作るには衣食が満ち足りるような生活基盤も大切であるという考えから、例年に引き続き就職支援の一環として県立本宮高校の模擬面接会を実施します。またこの模擬面接会が面接という意思の発信の場に慣れるための練習となり、社会人になってからも役立つ経験となると考えます。

さらに我々メンバーも一人ひとりが地域の礎としての意思を持ち、社会に貢献していかなくてはなりません。本年度行う事業に関わることでより洗練された「意思づくり」が達成されてこそ、それぞれがかけがえのない人財となり、それが繋がっていくことが「永代続く人財」を可能にするのだと思います。

我々委員会は以上の考え方を中心に据え、我々も含めた事業に関わる人の意思を確立し、次世代へとつなげることで永代続く活力ある南達地域の実現に寄与します。

2. 事業計画

- ① 児童又は青少年の健全な心の育成を目的とする事業
- ② 会員の相互理解及び会員の人材育成に関わる事業
- ③ 会員拡大を目的とする事業
- ④ 本宮高校、模擬面接会に関わる事業、またそれに関する事業
- ⑤ JCとしての、自己成長を促し、JCの魅力を対外に発信する事業
- ⑥ その他、上記以外公益目的事業に関する事業

事業名	一般会計繰入金	その他収入予算	事業予算
4月例会 (Teen's Will ～ 十代からの提言～)	270,000	0	270,000
6月例会 (県立本宮高校模 擬面接会)	30,000	0	30,000
10月例会 (グラウンドグラウンド ゴルフ事業)	100,000	0	100,000
合 計	400,000	0	400,000

「我らの想い未来へ」

1. 事業方針

東日本大震災が起こり、我々の生活環境は著しく変化を余儀なくされました。復興と言う道標を頼りに様々な対策、そして変化が求められました。そこには挑戦があり、前を向いて進む姿こそ未来への懸け橋となるのではないのでしょうか。

「そだのできっぺ！！」この地には、相手を肯定する強い表現があります。あなたなら出来る、やってほしい、理解出来ているはずだ。その表現には、相手を思いやる優しさ gentleness 厳しさ severity、そして信頼関係 trust relationship が無ければ発する事の出来ない言葉と考えます。SodanoDekiPpe = SDP精神で求められる人財へと成長して行きたいと考えます。

昨年度、英国王室が本宮市を来訪し子供と触れ合う様子が放映され明るいニュースが話題となりました。その場所はプリンスウィリアムパークと命名され子供たちの笑顔と共に植樹された「オーク(ヨーロッパナラ)」は復興のシンボルとなりました。その復興のきっかけを頂いた英国王室に感謝のメッセージを届けたいと考えます。来てくれた、ありがとう。お返しをしたい。それは日本古来の「和」であり、相互理解こそが新たな知恵を生み未来のまちづくりへと発展すると考えます。

そして、もとみや青年会議所は、平成31年に事務所移転を余儀なくされます。これからの活動拠点をより良き環境となるよう、立地条件等の情報集約をして参ります。

また、震災後全国各地で災害に備えた協力体制が構築されてきたと感じます。もとみや青年会議所は、活動エリアである、本宮市社会福祉協議会及び大玉村社会福祉協議会と包括的災害協定の締結を視野に、協議・議論を深め有事の際、迅速に協働し助け合う環境を整えて参りたいと考えます。

一年間、内容の濃い事業にしたいと考えます。メンバー一人ひとりの個性を尊重しそれぞれの能力を惜しみなく発揮して頂き活動して参りましょう。明るい豊かな南達地域の未来を見据え、何卒ご協力をお願い申し上げます。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

2. 事業計画

- ①児童又は青少年の健全な心の育成を目的とする事業
- ②行政機関や各種団体と協働し行う魅力ある事業
- ④会員拡大を目的とする事業
- ⑤事務所移転の検討を視野に、それに関する事業
- ⑥地域の特性を生かした、活力ある事業
- ⑦社会福祉協議会と災害協定を検討、それらに関する事業
- ⑧JCの魅力を対外に発信し魅力あるJCを発信する事業
- ⑨その他、上記以外の公益目的に関する事業

事業名	一般会計繰入金	その他収入予算	事業予算
7月 未来への懸け橋もとみやの想い海を渡る	1,000,000	7,000,000 (地方創成総合支援補助金) 2,000,000 (クライドファンディング)	10,000,000
9月 事務所移転検討会	5,000		5,000
11月 南達地域包括的災害協定検討会	30,000		30,000
合計	1,035,000	9,000,000	10,035,000

一般社団法人 もとみや青年会議所 2017年度 年間収支予算書(案)

2017年1月1日～2017年12月31日
(単位 円)

科 目	2017年度 予算	2016年度 予算	残高	備 考
【Ⅰ 事業活動収支の部】				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
特定資産受取配当金	0	0	0	
特定資産受取買付料	0	0	0	
②入金収入	60,000	100,000	△ 40,000	新加入会員6名×10,000(目標)
受取入金	60,000	100,000	△ 40,000	
③会費収入	2,750,000	2,725,000	25,000	
正会員会費収入	2,200,000	2,200,000	0	¥100,000×22名(大浪君、晃子君)
新加入会員会費収入	450,000	300,000	150,000	前後期会員100,000×3名(目標)、後期会員50,000×3名(目標)
特別会員会費収入	50,000	0	50,000	特別会員50,000×1名
賛助会員会費収入	50,000	225,000	△ 175,000	50000円×1名
④事業収入	285,000	2,616,000	△ 2,331,000	
登録料収益	0	400,000	△ 400,000	
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	0	800,000	△ 800,000	
販売収益	0	1,134,000	△ 1,134,000	
業務受託収入	285,000	282,000	3,000	3000×96名
雑収益	0	0	0	
⑤補助金等収入	9,000,000	1,500,000	7,500,000	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	1,000,000	△ 1,000,000	本宮市補助金 1,000,000-
受取民間補助金	2,000,000	0	2,000,000	クラウドファンディング
受取国庫助成金	0	0	0	※浪江町を参加に混ぜると国の補助金60万計上可能
受取地方公共団体助成金	7,000,000	0	7,000,000	福島県サポート事業
受取民間助成金	0	500,000	△ 500,000	
受取補助金等振替額	0	0	0	
⑥受取負担金	0	0	0	
受取負担金	0	0	0	
受取負担金振替額	0	0	0	
⑦受取寄付金	720,000	752,000	△ 32,000	
OB協力金	480,000	752,000	△ 272,000	OB会協力金 96×5,000円
寄付金収入	240,000	0	240,000	企業協賛金
受取寄付金振替額	0	0	0	
⑧雑収益	50,000	52,050	△ 2,050	
受取利息	0	2,050	△ 2,050	
雑収入	50,000	50,000	0	新年会、チャーターナイト、卒業式等の祝儀
事業活動収入計	12,865,000	7,745,050	5,119,950	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	10,913,500	5,512,650	5,400,850	
総務広報室	478,500	1,165,000	△ 686,500	HP委託費100,000円含む
SDP委員会	10,035,000	3,671,000	6,364,000	
永代続く人財育成委員会	400,000	676,650	△ 276,650	
雑費	0	0	0	
②管理費	1,455,900	1,628,300	△ 172,400	
給与手当	0	0	0	
退職給付費用	0	0	0	
福利厚生費	0	0	0	
会議費	0	0	0	
例会運営費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信運搬費	90,000	130,000	△ 40,000	通話料・通信料・発送費等
インフォメーション関係費	111,000	110,000	1,000	プロバイダ料金
消耗什器備品費	200,000	230,000	△ 30,000	
消耗品費	100,000	150,000	△ 50,000	コピー用紙、トナー等
会員支給品費	19,800	27,000	△ 7,200	バッジ1,600円×6、統一ネームプレート1,700円×6 6名分
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	0	10,000	△ 10,000	資料作成費、報告書作成費等
広報費	100,000	110,000	△ 10,000	新聞広告費
燃料費	10,000	30,000	△ 20,000	灯油代
光熱水道費	80,000	80,000	0	電気代等
貸借料	300,000	300,000	0	
保険料	10,000	10,000	0	
諸謝金	40,000	40,000	0	
租税公課	35,000	40,000	△ 5,000	県民税・市町村民税等
渉外費	80,000	80,000	0	慶弔費、諸会費、交際費等
委託費	240,000	240,000	0	事務局人件費¥20,000×12か月
記念品費	0	0	0	
衛生費	20,000	20,000	0	廃棄処理等
雑費	20,100	21,300	△ 1,200	振込手数料等
③負担金支出	495,600	604,100	△ 108,500	
国際青年会議所負担金	38,500	45,375	△ 6,875	¥1,375×22名 新入会員分 1,375×6名
日本青年会議所負担金	140,000	185,000	△ 45,000	¥5,000×22名 新入会員分 5,000×6名
地区協議会負担金	42,000	49,500	△ 7,500	¥1,500×22名 新入会員分 1,500×6名
ブロック協議会負担金	140,000	165,000	△ 25,000	¥5,000×22名 新入会員分 5,000×6名
国際協力資金支出	51,100	60,225	△ 9,125	¥1,825×22名 新入会員分 1,825×6名
We Believe購読料支出	84,000	99,000	△ 15,000	¥3,000×22名 新入会員分 3,000×6名
事業活動支出計	12,865,000	7,745,050	5,119,950	
事業活動収支差額	0	0	0	
【Ⅱ 投資活動収支の部】				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
【Ⅲ 財政活動収支の部】				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	6,844,288	6,844,288	0	
次期繰越収支差額	6,844,288	6,844,288	0	

一般社団法人もとみや青年会議所 2017年度正味財産増減予算書
2017年1月1日～2017年12月31日まで

(単位 円)

科目	2017年度 予算	2018年度 予算	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
特定資産受取配当金	0	0	0	
特定資産受取買戻料	0	0	0	
② 受取入会金	60,000	100,000	△ 40,000	
受取入会金	60,000	100,000	△ 40,000	
③ 受取会費	2,750,000	2,725,000	25,000	
正会員会費	2,200,000	2,200,000	0	
新入会員会費	450,000	300,000	150,000	
賛助会員会費	50,000	0	50,000	
特別会員会費	50,000	225,000	△ 175,000	
④ 事業収益	285,000	2,616,000	△ 2,331,000	
登録料収益	0	400,000	△ 400,000	
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	0	800,000	△ 800,000	
販売収益	0	1,134,000	△ 1,134,000	
業務受託収入	285,000	282,000	3,000	
雑収益	0	0	0	
⑤ 受取補助金等	9,000,000	1,500,000	7,500,000	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
受取民間補助金	2,000,000	0	2,000,000	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	7,000,000	0	7,000,000	
受取民間助成金	0	500,000	△ 500,000	
受取補助金等振替額	0	0	0	
⑥ 受取負担金	0	0	0	
受取負担金	0	0	0	
受取負担金振替額	0	0	0	
⑦ 受取寄付金	720,000	752,000	△ 32,000	
OB協力金	480,000	752,000	△ 272,000	
寄付金収入	240,000	0	240,000	
受取寄付金振替額	0	0	0	
⑧ 雑収益	50,000	52,050	△ 2,050	
受取利息	0	2,050	△ 2,050	
雑収入	50,000	50,000	0	
経常収益計	12,865,000	7,745,050	5,119,950	
(2) 経常費用				
① 事業費	10,913,500	5,512,650	5,400,850	
1 給与手当	0	0	0	
2 退職給付費用	0	0	0	
3 福利厚生費	0	0	0	
4 会議費	64,000	39,500	24,500	
5 例会事業費	80,000	386,150	△ 306,150	
6 旅費交通費	7,700,000	94,280	7,605,720	
7 通信運搬費	564,286	225,720	338,566	
8 インフォメーション関係費	100,000	100,000	0	
9 消耗什器備品費	0	50,000	△ 50,000	
10 消耗品費	25,500	26,369	△ 869	
11 会員支給品費	0	0	0	
12 修繕費	0	0	0	
13 印刷製本費	795,640	906,519	△ 110,879	
14 広報費	488,000	583,000	△ 95,000	
15 燃料費	0	0	0	
16 光熱水道費	0	0	0	
17 賃借料	0	0	0	
18 保険料	70,000	140,482	△ 70,482	
19 諸謝金	46,400	1,511,400	△ 1,465,000	
20 租税公課	0	0	0	
21 渉外費	150,000	0	150,000	
22 業務委託費支出	467,000	1,108,000	△ 641,000	
23 記念品費	83,900	190,460	△ 106,560	
24 衛生費	0	0	0	
25 雑費	278,774	150,770	128,004	

	②管理費	1,951,500	2,232,400	△ 280,900
1	給与手当	0	0	0
2	退職給付費用	0	0	0
3	福利厚生費	0	0	0
4	会議費	0	0	0
5	例会事業費	0	0	0
6	旅費交通費	0	0	0
7	通信運搬費	90,000	130,000	△ 40,000
8	インフォメーション関係費	111,000	110,000	1,000
9	消耗什器備品費	200,000	230,000	△ 30,000
10	消耗品費	100,000	150,000	△ 50,000
11	会員支給品費	19,800	27,000	△ 7,200
12	修繕費	0	0	0
13	印刷製本費	0	10,000	△ 10,000
14	広報費	100,000	110,000	△ 10,000
15	燃料費	10,000	30,000	△ 20,000
16	光熱水道費	80,000	80,000	0
17	賃借料	300,000	300,000	0
18	保険料	10,000	10,000	0
19	諸謝金	40,000	40,000	0
20	租税公課	35,000	40,000	△ 5,000
21	渉外費	80,000	80,000	0
22	業務委託費支出	240,000	240,000	0
23	記念品費	0	0	0
24	衛生費	20,000	20,000	0
25	雑費	20,100	21,300	△ 1,200
26	支払負担金	495,600	604,100	△ 108,500
	経常費用計	12,865,000	7,745,050	5,119,950
	評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
	①基本財産評価損益等	0	0	0
	②特定資産評価損益等	0	0	0
	③投資有価証券評価損益等	0	0	0
	評価損益等計	0	0	0
	当期経常増減額	0	0	0
	2. 経常外増減の部			
	(1) 経常外収益			
	①固定資産売却益	0	0	0
	建物売却益	0	0	0
	車両運搬具売却益	0	0	0
	什器備品売却益	0	0	0
	土地売却益	0	0	0
	借地権売却益	0	0	0
	電話加入権売却益	0	0	0
	②固定資産受贈益	0	0	0
	土地受贈益	0	0	0
	投資有価証券受贈益	0	0	0
	経常外収益計	0	0	0
	(2) 経常外費用			
	①固定資産売却損	0	0	0
	建物売却損	0	0	0
	車両運搬具売却損	0	0	0
	什器備品売却損	0	0	0
	土地売却損	0	0	0
	借地権売却損	0	0	0
	電話加入権売却損	0	0	0
	②固定資産除却損	0	0	0
	土地減損損失	0	0	0
	投資有価証券減損損失	0	0	0
	③災害損失	0	0	0
	災害損失	0	0	0
	経常外費用計	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0
	他会計振替額	0	0	0
	当期一般正味財産増減額	0	0	0
	一般正味財産期首残高	6,844,288	6,844,288	0
	一般正味財産期末残高	6,844,288	6,844,288	0
	II 指定正味財産増減の部			
	①受取補助金等	0	0	0
	受取国庫補助金	0	0	0
	受取地方公共団体補助金	0	0	0
	受取民間補助金	0	0	0
	受取国庫助成金	0	0	0
	受取地方公共団体助成金	0	0	0
	受取民間助成金	0	0	0
	②受取負担金	0	0	0
	受取負担金	0	0	0
	③受取寄付金	0	0	0
	受取寄付金	0	0	0
	④固定資産受贈益	0	0	0
	土地受贈益	0	0	0
	投資有価証券受贈益	0	0	0
	⑤基本財産評価益	0	0	0
	基本財産評価益	0	0	0
	⑥特定資産評価益	0	0	0
	特定資産評価益	0	0	0
	⑦基本財産評価損	0	0	0
	基本財産評価損	0	0	0
	⑧特定資産評価損	0	0	0
	特定資産評価損	0	0	0
	⑨一般正味財産への振替額	0	0	0
	一般正味財産への振替額	0	0	0
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
	指定正味財産期首残高	0	0	0
	指定正味財産期末残高	0	0	0
	III 正味財産期末残高	6,844,288	6,844,288	0